



炊き出し訓練

川口市総合防災訓練

8月25日、鳩ヶ谷地区の全小・中学校9会場で開催。炊き出しや応急手当、プライベートルーム作成訓練などを行い、いざというときの行動を確認しました。



シェイクアウト訓練



応急手当訓練



プライベートルーム作成訓練



市議会では9月13日、議場で避難訓練を実施。地震発生直後の初動対応としてシェイクアウト訓練も行いました。

KAWAGUCHI PUBLICITY



はやし 領家の囃子と神楽 (市指定無形民俗文化財)

9月14日に領家稻荷神社で開催。囃子にあわせてことぶきしし寿獅子が舞われ、おかめ・ひよっこ・恵比寿・大黒などが登場するお神楽が奉納されました。



川口わんぱくトライアスロン2013

8月25日、青木町公園を主会場に開催。小学4～6年生288人が、水泳50m・自転車3km・マラソン1kmのミニトライアスロンレースに挑みました。



オートレースイベント in東京ドーム

9月3日、東京ドームで開催。市内小中学生がプロが使うグラウンドでノックやランニングを体験したほか、今年デビューした女子レーサー3選手のデモ走行や岡村市長の始球式で、球場は歓声に包まれました。



中央図書館来館者1,000万人

平成18年7月1日にオープンした中央図書館とメディアセブン。9月8日、来館者が延べ1,000万人を達成しました。川口駅前での利便性が良く、平日は午後9時まで開館していることから、子どもからお年寄りまで幅広い世代にご利用いただいています。

(写真:1,000万人目来館者倉田さん親子)

COMMUNITY

マイシティ
かわぐち

MYCITY

ひと・歴史・かわぐち Vol. 10

このコーナーでは「川口宿 鳩ヶ谷宿 日光御成道まつり」に登場した川口ゆかりの人物を紹介していきます。

水を治め 吉宗を支える

井澤 彌惣兵衛為永

今回は、見沼代用水による農業革新と見沼通船堀による物流革新を成し遂げた井澤彌惣兵衛為永をご紹介します。

「新田の開墾。河渠かきまのしゅんりの浚利など年ごろ熟せしきこえあるをもてなり。徳川幕府の公式記録である『徳川実紀』に記された為永の評は、熟年実力者。55歳にしての幕府からの召し出しでした。

紀州藩主から八代將軍に就任した吉宗は、幕府の財政再建を期して「享保の改革」に着手します。その骨格をなすのが新田開発による米の増産でした。田は水が頼り。そこで吉宗は紀州藩で30年余に渡り、紀州流と称される利水技術を駆使してきた土木工事の達人。為永を国許から呼び寄せ、旗本に加えたのでした。

為永は、周囲40数kmに及ぶ灌漑用水源「見沼溜井」の干拓に乗り出しました。そのために必要な新たな水源を得るため、利根川から取水する約60kmの幹線水路の建設を決定します。交差する川の上を通す掛渡井、下を通す伏越の技術を用いた大工事は、享保12年(1727)9月の着工からわずか半年、農閑期のうちに完成を見ました。見沼溜井に代わる用水「見沼代用水」の誕生です。

為永は、さらに芝川・荒川(現隅田川)を介した周辺地域と江戸との物流を見沼通船堀の開削で実現します。舟運の障害は、用水と芝川との3mの水位差。為永は閘門式と呼ばれる水位調節機構で克服しました。およそ200俵の米を積む船も通行し、江戸に大量の物資がもたらされたのです。享保16年(1731)、為永68歳のことでした。

地の利を見極め水の利を活かす優れた技量と断じて行う強い意思。為永が注いだ利水への情熱は、今も人々に潤いを与え続けています。

出典：徳川実紀 有徳院殿實紀巻十七
参考文献「川口の文化財」1991、川口市教育委員会



閘門式：舟を閘室(前後を扉で仕切った区画)に入れ、扉の開閉によって水位を昇降させ進路方向との水面を合せたのち、門を開いて舟を進める。
見沼通船堀：さいたま市緑区大字大間木地内